

2014年3月11日(火) 19:00～21:00

21世紀の カオスのなかで

講師：齋藤 茂樹

本日の内容

1. ベンチャーキャピタリストまでのキャリアの歩み
2. ベンチャー企業の成功のためのロジック
3. ベンチャーから見た日本社会の仕組み
4. どう生きるか — 独立して生きる
5. 意見交換

SIPフィナンシャル・グループ株式会社
エス・アイ・ピー株式会社

代表取締役社長 齋藤茂樹

自己紹介

齋藤茂樹 (サイトウ シゲキ)

1961年生まれ。東京大学経済学部卒業後、85年に民営化一期生としてNTTに入社。大企業向け通信ネットワークの販売・構築、料金・サービス契約約款のデザイン、認可業務等を担当、94年退社。97年、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）スローンスクールにてハイテクベンチャーの経営を学び、MBA取得。その後、米国ネットスケープ・コミュニケーションズ入社、日本市場でのポータル・ビジネスを統括。（株）デジタルガレージでは、公開期の中心メンバーとして参画、代表取締役として大手企業への戦略的インターネット・ソリューションを提供。大企業とともに新規事業を立ち上げる手法「スポンサード・インキュベーション」を開発。2004年～2011年までデジタルハリウッド大学大学院教授としてデジタルコンバージェンス論及びベンチャーキャピタルビジネス論で登壇に立つ。現在は、エスアイピー・フィナンシャル・グループ株式会社代表取締役社長。エス・アイ・ピー株式会社社長としてインターネット・半導体・ロボット・農業をはじめ幅広い領域で活動中。最近は母校である開成学園のOBとしてグローバル開成会を代表監事として立ち上げ、海外に留学する高校生や卒業生の支援活動をしている。日本ベンチャーキャピタル協会理事、日本ベンチャー学界会員



◆著書

「イノベーション・エコシステムと新成長戦略」丸善出版

「デジタル・コンバージェンスの衝撃～通信と放送の融合で何が変わるのか」日経BP企画

「世界は君を待っている！－MBA留学とグローバル・リーダーシップ」（共著）中央経済社

資本主義をドライブするのは利潤の創造の力

①

利潤の源は、中世の重商主義者の時代において、貿易商人がアジアの貴重な資源をヨーロッパという異なる経済価値圏をもってきて商財を貿易することでその価値の差異を利益輩出する。異なる経済圏間の裁定取引。

②

マルクスは、産業革命後の工業社会においては、資本家が労働力を搾取することで新たな価値をつくり新しい収益の源をつくったと解釈。金融資本主義の発展により、労働者の報酬は貯蓄というかたちで金融機関に預けられ、労働者も資本者階級の一部に組み込まれていくということが起こり、共産革命は挫折。

③

イノベーションとは、「技術革新をベースに消費者が便利であると受け入れる商品・サービスを未来の先取りとして実現する」



岩井克人
ヴェニスの商人の資本論

SIP のご紹介



この世で一番偉い人間は企業家である」 J.A.シュンペーターの言葉がSIP-FGの理念です

ベンチャー企業は、資本主義のエンジンとなるイノベーション・システムの主役となるべき存在です。20世紀、自動車、エレクトロニクス、インターネットにおけるイノベーション・システムが時代の産業を牽引してきました。SIP-FGでは、「経営にイノベーションのある会社・企業家こそが、社会に最も貢献し発展をもたらす」との信念のもと、イノベーションを起こす起業家を発掘し、投資・支援を行っています「この世で一番偉い人間は企業家である」という経済学者J.A.シュンペーターの言葉が、SIP-FGの企業家に対する基本スタンスです。



SIPは、日本にベンチャーキャピタルを誕生させた齋藤篤により創業されました

齋藤篤は、JAFCO在籍時代に日本初のLPS (Limited Partnership)であるベンチャーキャピタルファンドJAFCO第1号を設立し、その後日本アジア投資(株)、CSKベンチャーキャピタル(株)の設立に寄与し、日本のベンチャーキャピタルの草創期から発展に携わって参りました。SIPは、その齋藤篤により米国流の高いROI (Return on Investment) を実現するベンチャーキャピタルを目指して1996年に設立されました。

SIP

SIP-FGはグローバルに展開する企業及びビジネスの「アーリーステージ」から「エクспанション」まで企業の成長するためのクロスボーダー展開を支援します

SIP-FGは、「アーリーステージ」にあるベンチャー企業への投資こそが、ベンチャーキャピタルが業界として成り立ちうる存立基盤であると考えています。その上で、株式公開したのちも、証券市場において健全な企業価値の成長を遂げ、円滑な市場からの資金調達ができるための「エクспанション」の支援を提供することが必要であると考えます。

「アーリーステージ」段階から、「エクспанション」段階に至るまで、ベンチャー企業が潜在力のある製品やサービスをクロスボーダーにより大きく展開することに貢献すべく、事業戦略・資本戦略の両面から「ハンズオン」支援をしていきます。

投資先企業

SIPの投資先企業は、日本から海外に展開できる商品力をもったプロダクトのあるベンチャー企業に投資し、海外展開を支援していくハンズオン投資を実行。

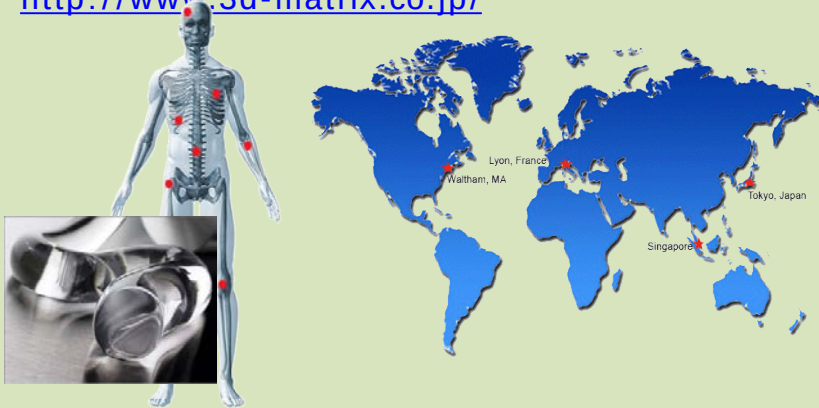
3D Matrix, Inc

株式会社スリー・ディー・マトリックス

MITの技術のライセンス供与と出資を受けて日本で製品開発。ベイン・アンド・カンパニーの永野氏とメディカル業界出身の高村氏の経営チームによる自己組織化ペプチドによるC型肝炎などの感染リスクのない外科用止血剤。扶桑薬品により外科手術用止血剤が製造申請中。海外への展開を公開後予定。



<http://www.3d-matrix.co.jp/>



Double Scope, Inc

ダブル・スコープ株式会社

韓国サムソングループ出身の崔社長がTNCの支援を得て日本で創業したリチウム電池のセパレーターという部材の開発会社。中国のPC・携帯向け二次市場から市場参入し、サムソンが大型出資しIT商品向けに拡大。更に米国バッテリー大手から電気自動車向けの大量発注を受け、展開中

http://www.w-scope.com/main_japan.htm

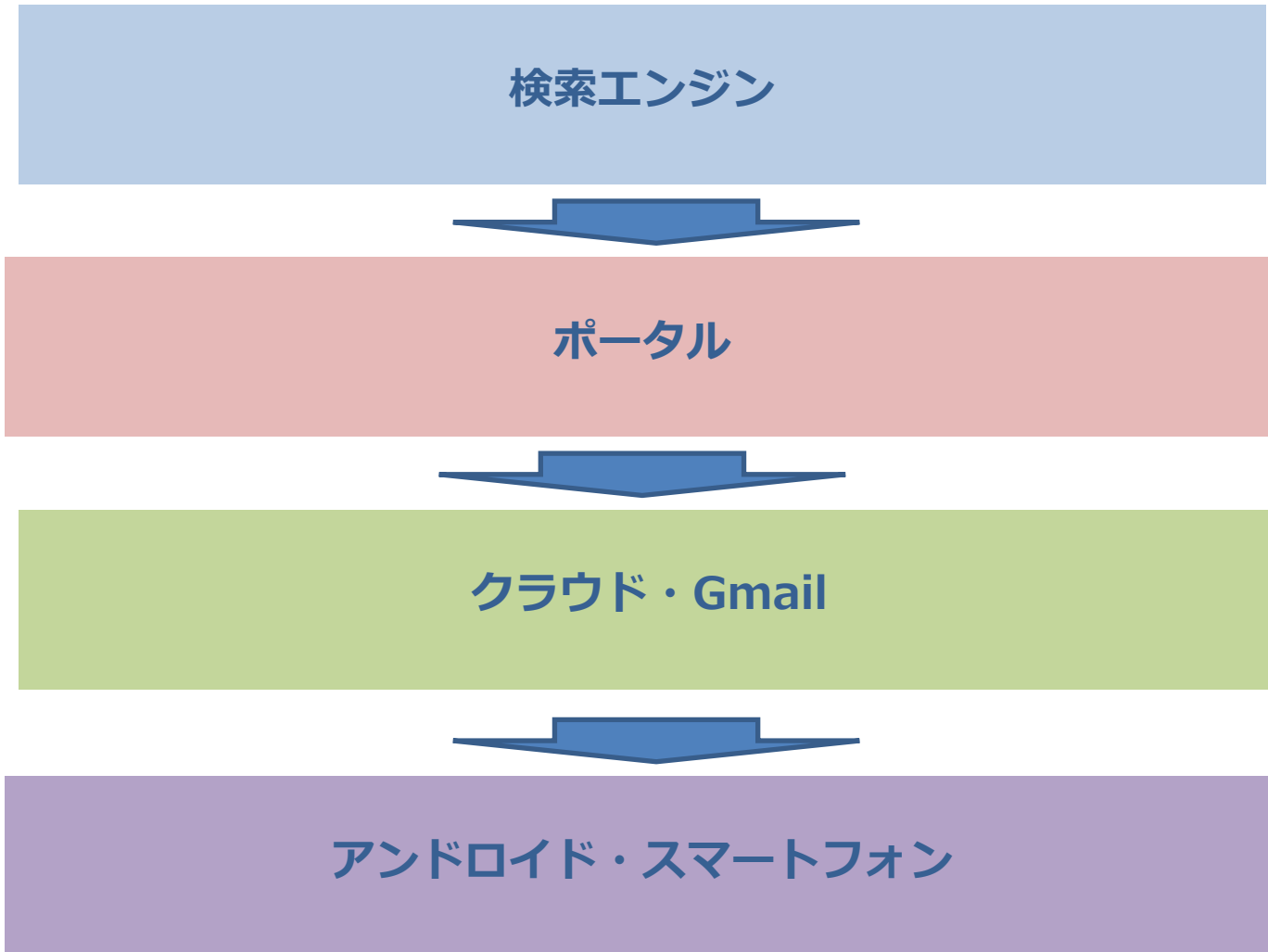


質問：

**蒸気機関車と、大陸横断鉄道の
どちらが人類のために
役立ったのだろうか？**

イノベーションの段階的发展

Google のビジネスモデルの発展のケース



あると便利なものから、なくてはならないものになれるか

インベンションとイノベーションの発展フェーズ

インベンション・フェーズ

イノベーション・フェーズ

発展

段階

内容

リサーチ

基礎技術の研究から派生する応用技術の洗出し

デベロップ
メント

コア技術とアプリケーションの紐付けと有望市場への商品化

マーケット
イン

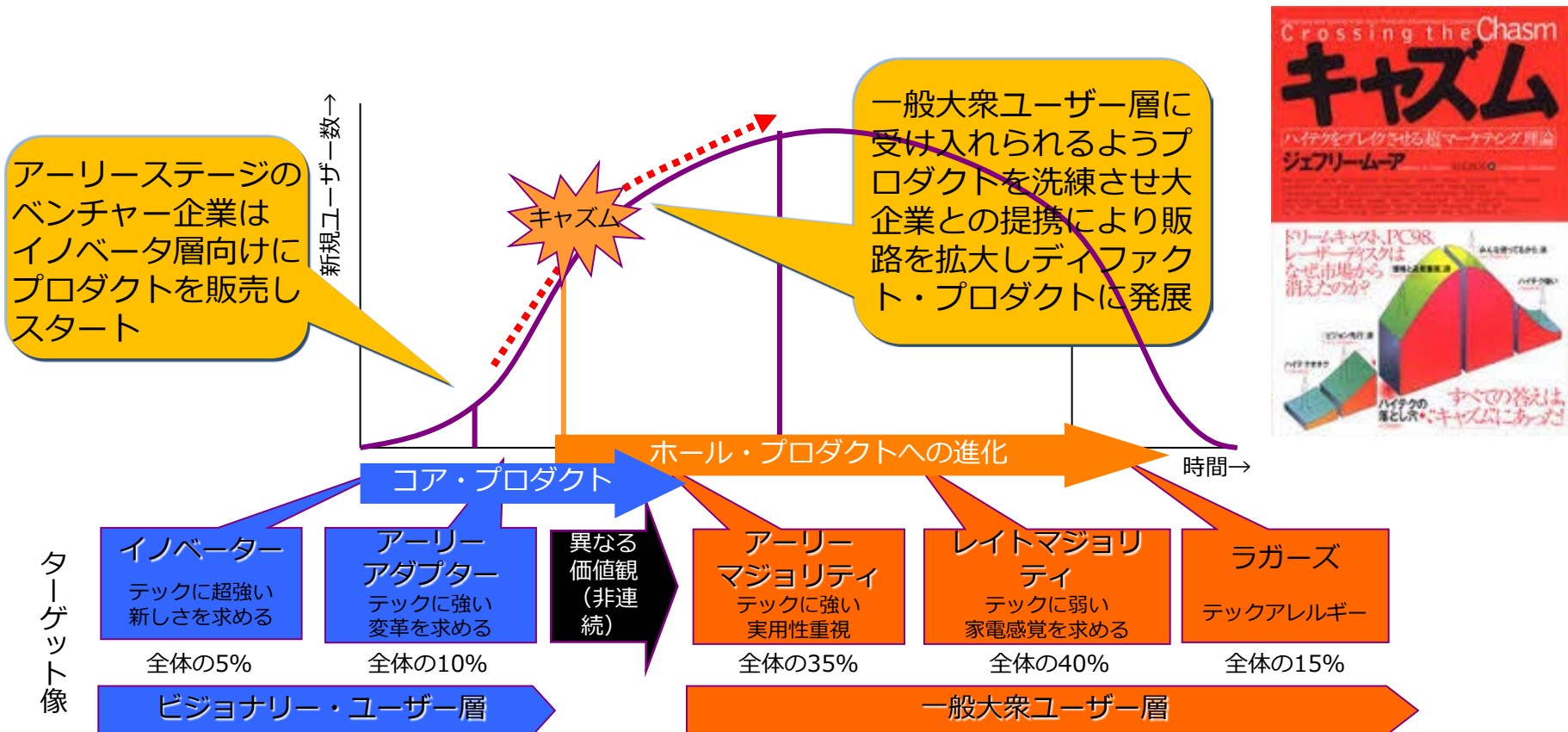
ビジョナリーユーザー向けのコア・プロダクトのマーケット参入

成長戦略

一般大衆ユーザー向けへの大規模販売とそのため
のホール・プロダクトへの商品改善

ハイテク・マーケティングの理論 — キャズムの理論

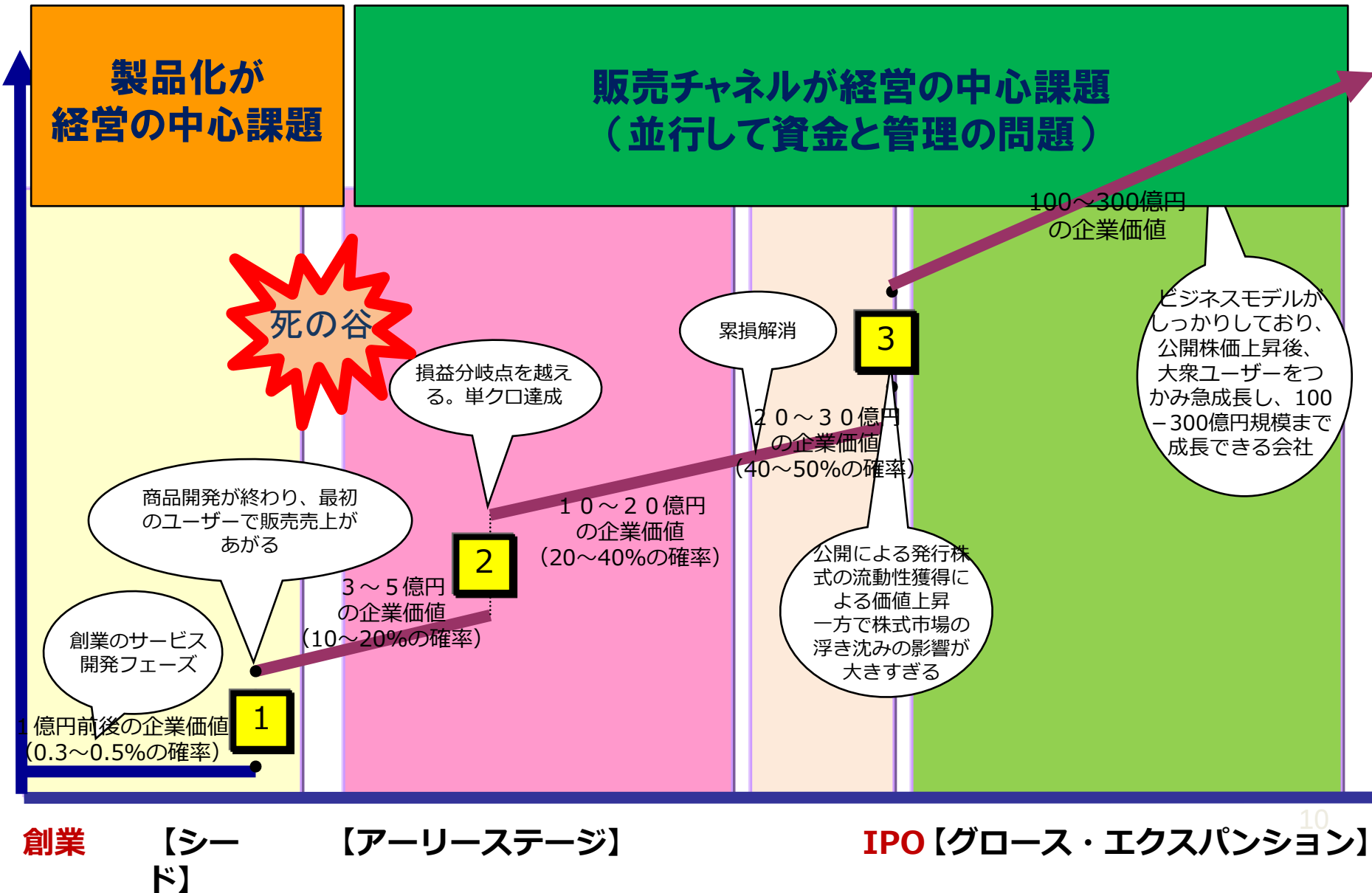
企業が開発したプロダクトはコア・プロダクトと呼ばれるイノベーター層に受け入れられるプロダクト。このコア・プロダクトを一般大衆ユーザー層に受け入れられるホール・プロダクトに商品として進化させ、販売チャネルをもつ企業と提携しプロダクトを販売することでエマージング・グロースを輩出する。



* 出所：“Crossing the Chasm” by G.A. Mooreに加筆

ベンチャー企業の成長段階

企業価値



ベンチャーキャピタルがベンチャー企業に投資する視点

1. プロダクトのコアの評価

- ① インベンション・フェーズであればコア技術と市場性
- ② イノベーション・フェーズであればビジネスモデル・社会システム

2. マーケティング・販売戦略の評価

ビジョナリー・ユーザーを抱えている大手企業との販売チャネルの提携戦略

3. 資金ファイナンス力

資金の相談も含めて戦略的につきあえるベンチャーキャピタルと事業会社と提携

4. 経営者

創業経営者が、公開できる組織経営の会社になるまでの経営運営を信頼できる透明性をもって実行していくアントレプレニューアーであること

ニュービジネス経営者の資質

- ① 未来をイメージしそれを具現化する能力
(ビジョン形成力)
- ② ベンチャービジネスの経営とは、ないないづくしの経営からスタートする実行力
(アントレプレニューアーシップ)
- ③ 会社の経営状況をその実態と財務諸表をリンクして理解できる能力 (バランスシートを見る目)
- ④ お金儲け主義で働くのではない崇高な人生観
(クレバリティ)

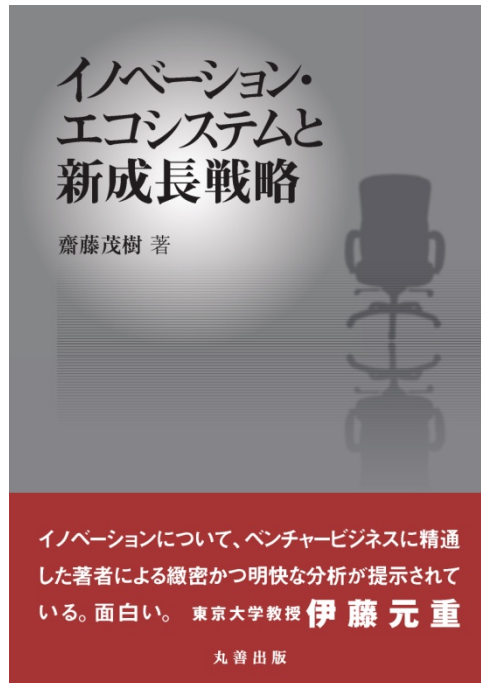
「イノベーション・エコシステムと新成長戦略」

次世代日本の成長戦略の柱になるべきは、ニュービジネスの企業群とそのニュービジネスを創っていく主体になれる大手企業とベンチャー企業である。このニュービジネスの一つひとつを木にたとえると、それらの木が森というクラスターを形成するように作りあげ、さらに森の中からまた新しい若い木が次々と新しい成長サイクルをつくっていくような生態系システム、すなわちエコシステムをつくりあげることこそが日本の、あるいはグローバル経済における共通の成長戦略である。本書では、この日本の成長戦略を考えるために、経済成長を引き起こすイノベーションとはどういう仕組みであるべきか、さらには自律発展的なエコシステムをどう作りあげていくべきか、について具体的に議論を展開していく。

刊行によせて (日本ベンチャー学会前会長 一橋大学教授 伊藤邦雄)

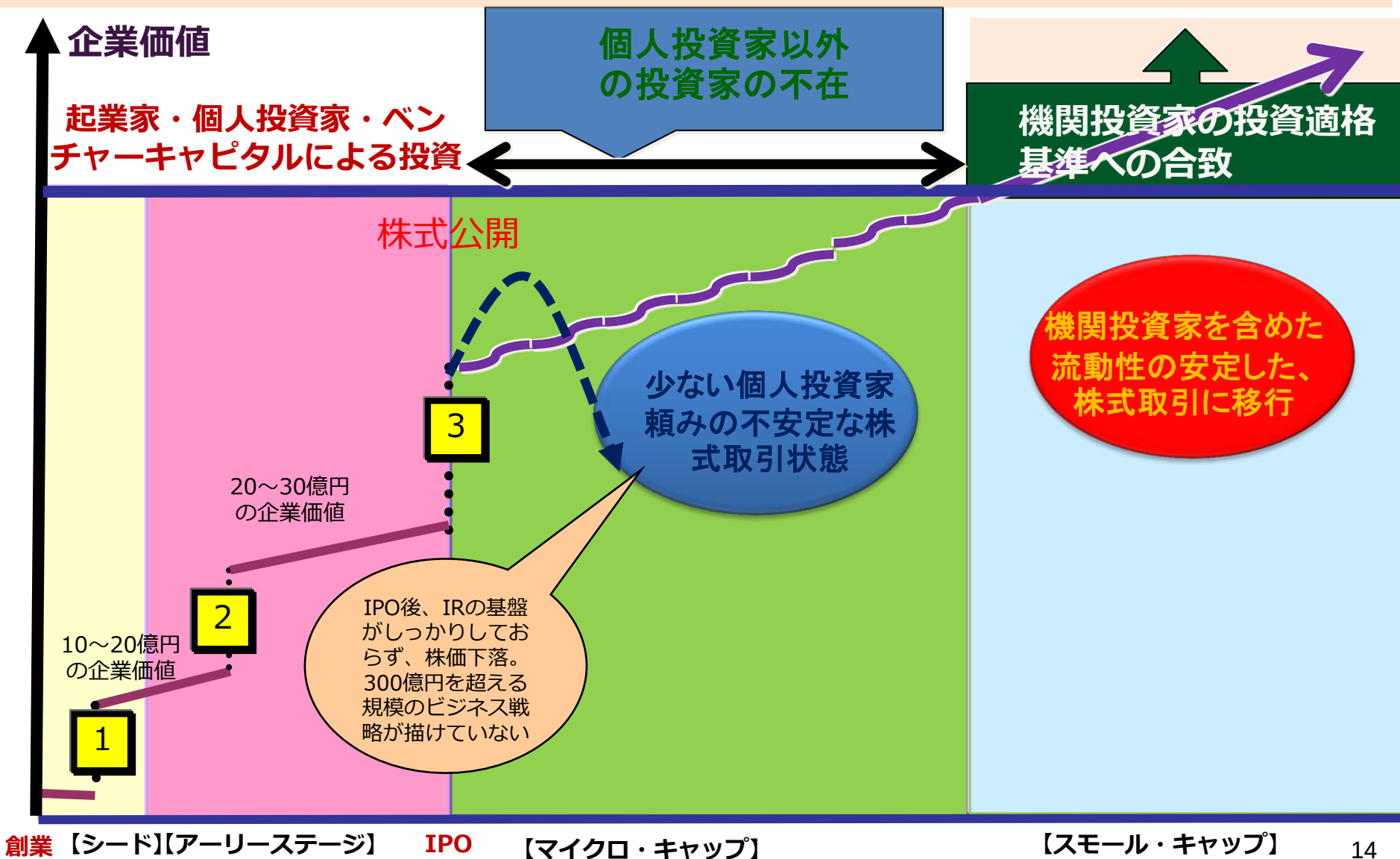
本書の著者の齋藤茂樹さんは、こうした問題を熟知し、かつ私と同じ問題意識を共有してきた豊かな将来性をもった若きベンチャーキャピタリストです。齋藤茂樹さんは、アメリカのMITで教育を受け、アメリカの起業家精神や資本主義の実態を目の当たりにしてきました。それをベースに日本に戻ってからのベンチャーキャピタリストとしての経験に照らして、未来志向でわが国の羅針盤を提示したのが本書です。一緒に夢を追いかけて、この国を再び輝かせましょう

- 第1章 資本主義とイノベーション
- 第2章 インベンションとイノベーションの発展段階
- 第3章 大企業とベンチャー企業
- 第4章 リスクファイナンス・ビジネスのあり方
- 第5章 イノベーション・マーケット
- 第6章 グローバルマーケットをもう一度考える
- 第7章 イノベーション・エコシステム創造への挑戦
- 第8章 アントレプレニューアの生まれる社会



マイクロキャップ投資家の不在による株価発展の不安定性

株式公開後にさらなる成長に向けて次の飛躍が出来ない企業が多数存在。ベンチャー企業のIPO以降に積極的に投資する投資家が十分に存在していない。



アーリーステージからエクспанション・グロースへ

アーリーアダプターユーザーを獲得するアーリーステージから海外投資家の投資対象となる10億円単位で利益拡大できるようになるエクспанションステージになるには海外に展開するスケーラビリティが必要



グローバルなマルチプルターゲット・アプローチ

複数の海外マーケットを並行して参入アプローチ

- ①プロダクトのローカライゼーションのレベル
- ②チャネル・パートナー

資金調達もグローバルに多様な投資家・投資市場から

20世紀のビジネスモデルと21世紀のビジネスモデルへのシフト

20世紀型ビジネスモデル

- アメリカ経済が世界を牽引
- 日本がアメリカ経済を追い、ヨーロッパは統一経済圏をつくっていく過程
- 成長を牽引する市場は、通信・パーソナルコンピュータ・ソフトウェア・インターネット



21世紀型ビジネスモデル

- リーマン・ショック以降、米日欧経済が弱体化
- 代わって、中国が低労働賃金の生産大国から中間層が豊かになり消費者大国となる
- ASEAN、インド、ロシア、ブラジルなどが中国の成長を追いかけ次の経済の主役に参加
- 成長を牽引する市場は、成長する開発途上国の消費者が購入する商品で大衆向けスマートフォンや食品等広範な分野に成長分野が存在

帝国主義の破綻・第2次世界大戦 による世界的な破壊

国際経済学の理論的支柱

- ・ リカードの比較優位論
- ・ ヘクシャー＝オリーンの定理

GATTの設立精神

幕末体制と現在の対峙

江戸末期も現在も武士階級、官組織・大企業という巨大な非生産階級が社会のパワーサイドに存在している。

江戸幕末体制

士

農
工
商

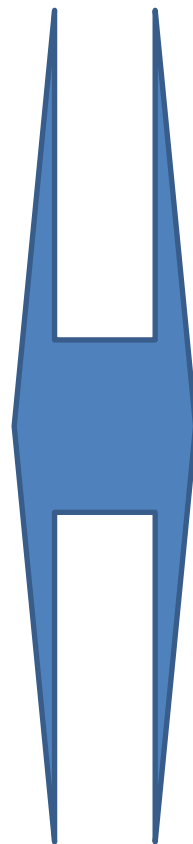
鎖国と海外からの脅威
：欧米列強

現在

公務員
大企業

中小ベンチャー
個人事業主

心理的鎖国と
TPP議論・海外からの脅威
：中国新興国



日本大企業の提供する商品の価格構造



管理部門の合理化のない競争のないなかでの
人為的な国内独占企業の創造

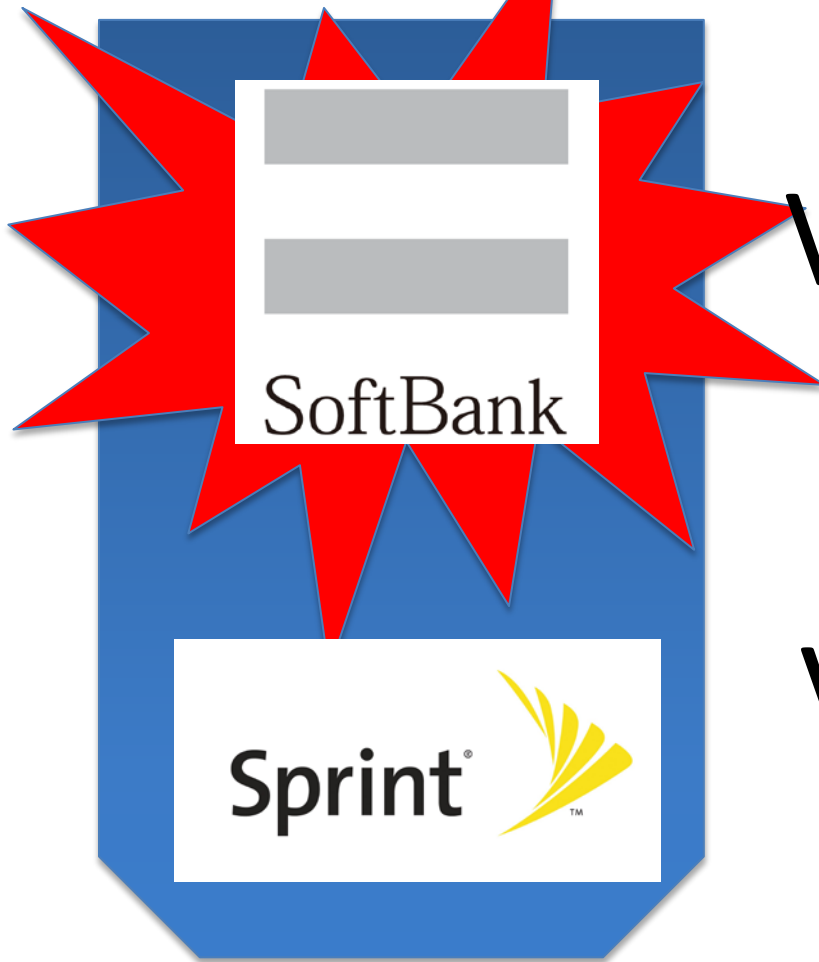


事例 1 通信会社とIP化

事例 2 電気自動車と既存自動車会社

グローバル競争主義が勝ったテレコミュニケーション業界

競争のなかで勝ち抜いてM&Aによる業容拡大とグローバル化



VS



VS

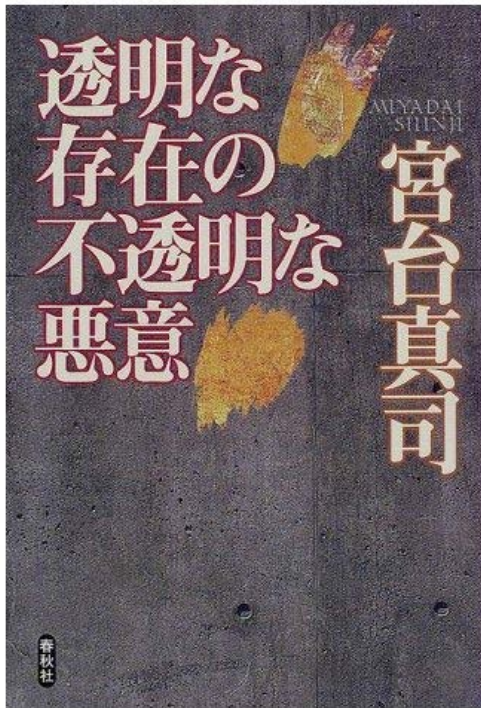


儒教的年功序列主義と社会システムの統合システム → 「歳をとるほど万能に近づく」という考えが基盤

儒教的な年長者の知恵を尊ぶという考え方が、戦後の高度成長期に会社家族主義の年功序列の給与体系と序列システム、労働組合と経営層が蜜月で経営を進める日本的経営を創りあげたが、現代の激しい国際交流の進展とテクノロジーの発展のなかで年寄りより若い世代が優れる要素も増えてきている中で大企業は時代への適応ができず、日本の経済優位性は著しく損なわれている。

黒人と白人の差別社会を乗り越えてきたアメリカ社会には、本来、人間はすべてにおいて平等であるという概念が浸透しており、大人と子供、男性と女性、白人と有色人種をフェアに接する基盤がある。

アメリカ社会の基盤 MENTERSHIP



宮台真司

専業主婦廃止論

受験戦争に勝ち抜き有名大学から超大企業に入り、年功序列のヒエラルキーのなかで激烈な国際環境の変化・テクノロジーの進化に弱く給料だけが高くなる組織で働く男性と結婚し、専業主婦が子供の教育のみを生き甲斐とし、自身が社会を知らないなかで、学校以外の社会を知らない先生の言葉を鵜呑みにして家庭に学校の支配を拡大しているシステム。

MY COMPANY・OUR COMPANYで働く場所をもって
ほしい人たち

- ・女性
- ・若者
- ・農業

- ・シニア
- ・外国人

皆が国からの援助で生きる生き方、自分で稼げていない組織のなかで奴隷
になって生きる生き方からの解放



**『SMALL COMPANY社会＝自立生産社会』
という生き方革命**